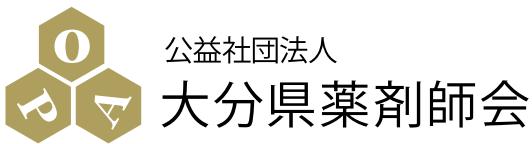


通号 220  
vol. 60-1



公益社団法人  
大分県薬剤師会

# 県薬会報 おおいた

Journal of  
The Oita  
Pharmaceutical  
Association

一般公開版

1

2026  
JANUARY



ふるみん

日本薬剤師会  
公式キャラクター  
猿バージョン

Point of View [視点]

新年のご挨拶

会長 中芝 高彦

## 新年のご挨拶

会長 中芝 高彦



新年あけましておめでとうございます。会員の皆さんにおかれましては、日々それぞれの現場で地域医療の最前線を支えていただき、心より敬意を表します。本年も大分県薬剤師会として、皆さんと共に歩み、地域住民の健康を守る基盤づくりに尽力してまいります。

まず、昨年末に佐賀関地区で発生した大規模火災では、多くの住民の生活が一変し、避難生活や薬の確保に不安が広がりました。本会としても迅速に薬剤師を派遣し、避難所での服薬指導、お薬相談、健康相談、そして状況に応じてOTC薬の提供など、必要なケアを行うことができました。現場に駆けつけてくださった会員の皆さんには改めて深く感謝申し上げます。同時に、災害時の連携体制や情報共有の重要性を再認識する機会ともなり、本年は災害対策マニュアルの更新や医療機関との訓練強化に取り組み、平時から備える組織づくりを進めてまいります。

次に、県内の喫緊の課題である薬剤師確保事業について触れたいと思います。大分県全体で薬剤師需給の地域差は依然として大きく、特に中山間地域では人材不足が医療提供体制に影響を及ぼしています。本会では、県との連携のもと就業支援・研修環境整備・若手薬剤師のキャリア形成支援を強化し、魅力ある職場づくりと定着促進に努めてまいります。薬学生・若手薬剤師との交流機会の拡充や、地域医療の魅力を発信する取り組みも一層推進し、持続可能な薬剤師確保の実現に向けて取り組んでまいります。

また、厚生労働省が推進を掲げる「地域

フォーミュラリ」は、地域全体で薬物治療の標準化と適正化を進めるうえで極めて重要な施策です。医師・歯科医師・薬剤師など多職種が共通の治療方針や推奨薬剤を共有することで、患者にとってわかりやすく、かつ安全で持続的な治療が可能になります。大分県でも医療機関・薬局間の連携を強化し、地域の実情に合ったフォーミュラリの整備が求められています。本会としても、エビデンス評価の支援、運用体制の構築、地域薬局・病院薬剤師への定着支援などを進め、地域医療の質向上につながる取り組みを積極的に後押ししてまいります。

本年はまた、次期調剤報酬改定を迎える重要な年でもあります。地域包括ケアの深化、外来医療DXの進展、セルフメディケーションの推進など、薬局薬剤師に求められる役割はさらに高度化・多様化しています。改定議論では、薬剤師の専門性が適切に評価され、地域住民にとって必要なサービスを継続できる制度設計が求められます。本会としても国議論を注視しつつ、現場の声を丁寧に集約し、国・日薬に対して適切に意見を伝えてまいります。

日本薬剤師会が策定した「地域医薬品提供体制強化のためのアクションリスト」は、地域で切れ目のない医薬品供給と薬物療法支援を実現するための、具体的かつ実務に即した指針です。

医薬品の安定供給、薬局間連携の強化、災害・感染症への備え、在宅・外来支援の質向上など、多岐にわたる要点が整理されており、地域医療における薬剤師の役割を明確に示しています。本会としても、このアクションリストを活かし、研修事業や情報共有体制の整備を通じて県内薬局の取り組みを支援し、大分県全体の医薬品提供体制の強靭化に寄与してまいります。

さらに医療DXの進展は、薬局・薬剤師の業務に大きな変革をもたらします。電子処方箋や電子カルテ情報共有の普及に伴い、薬剤師が得られる情報は格段に広がります。これにより、薬物治療の最適化や重複投薬の防止、在宅患者

支援などの質が大きく向上する一方、新しい業務フローやデジタル環境への適応も求められます。本会としては、会員の皆さまがスムーズにDXを活用できるよう研修や相談体制を充実させ、デジタル化を地域医療の質向上につなげてまいります。

最後になりますが、私たち薬剤師を取り巻く環境は大きく変化していますが、「県民の健康と安心を守る」という使命は揺らぐことはありません。本年も会員の皆さまと力を合わせ、地域に必要とされる薬剤師会として一層発展していく決意です。今後とも皆さま方のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



## 視点

新年挨拶

会長 中芝 高彦

## 佐賀関大規模火災支援活動報告

佐賀関大規模火災における支援活動報告 災害対策委員会 委員長 谷池 仁志

## シリーズ 薬剤師確保事業

公益財団法人 永富薬学奨学財団

理事長 永富 茂

## お知らせ

薬剤師会の運営する薬剤師求人サイト「ファーマファインドJOB」  
薬剤師で再就職してみませんか？

## 特集

薬と健康の週間 報告

大分県薬剤師会

中津薬剤師会

会長 川口 純市

豊後高田市薬剤師会

豊後高田市「昭和の町音楽祭」での啓発活動

会長 酒井 浩一

令和7年度 お薬相談会報告書

佐伯市薬剤師会

健康フェア活動報告

佐伯調剤薬局 仲矢侑希子

大分県薬剤師会薬事情報センター

令和7年度 おくすり110番報告

令和7年度 県民公開講座 お薬セミナー

情報委員会 委員長 安部 憲廣

参加報告

情報委員会 委員 山田 真義

検査センターだより

O・P・A薬局だより

### 佐賀関大規模火災における 支援活動報告

災害対策委員会 委員長 谷池 仁志  
(中村病院)

2025年11月18日に発災しました佐賀関の大規模火災におきまして、被災された方々へ、心よりお見舞い申し上げます。今回、災害対策委員会では、大分市保健所からの出動要請を大分県が受け、それを大分県薬剤師会が受諾し、モバイルファーマシー（以下MP）にて支援活動を行いましたので、その内容を報告させていただきます。



佐賀関市民センターとMP

支援場所は避難所となっていた佐賀関市民センター（以下センター）、1日2～3名の薬剤師でローテーションを組み、支援期間は11月20日～12月5日までの16日間でした。主な支援活動としては、残薬不足となった薬剤の手配や、OTC薬での対応といったお薬相談、センター各所の換気を確認するために、二酸化炭素濃度の測定などを行いました。今回は災害救助法が適応されましたが、近隣の医療機関は機能していたため、災害処方箋の交付は認められませんでした。よって、今回はMPにOTC薬を積

み、それらを持って行く形での出動となりました。センターには、行政、保健所、JMAT、DWAT、JRATなど、多くの職種が支援活動を行っていました。薬剤師チームは出入口付近にお薬相談ブースを設置し、活動を行いました。



お薬相談ブース  
(岩屋毅議員の訪問時の様子)

1日の流れとしては、9:00頃に現場に到着し、まずは現場の調整本部へ挨拶、付箋に名前を書いてホワイトボードへ貼り、薬剤師チームから何人、誰が来ているかを報告しました。その後、相談ブースの準備を行い、9:30から全体ミーティング、その後に医療チームのみのミーティングが行われ、このミーティングの際に、各支援チームの前日までの活動内容と、当日からの変更点や連絡事項を行い、それぞれに周知を行いました。ミーティング終了後、お薬相談ブースに常駐し、避難者からの相談を伺っていきました。



全体ミーティング前  
(多くのチームが参加していた)

お薬相談は、多い日では1日20件を超える相談があり、初期の頃は高血圧薬、糖尿病薬など常用薬の残薬不足による処方希望も多くありました。自家用車があるなど、ご自分で動ける方にはご本人から医療機関へ受診し、処方薬をいただくように促すこともありましたが、問題となったのは火事で自家用車の駐車場まで行けない、ないし自家用車が消失した方です。このような方に対しては、お薬手帳などの薬剤情報が載っているものがないか、持っていない方に対しては、かかりつけの医療機関をご本人やご家族へ確認後、支援薬剤師からかかりつけ医へ電話連絡を行い、センター近くの、はまゆう薬局へ処方箋をFAXしていただき、はまゆう薬局で調剤を行っていただきました。事前に保健師チームと打ち合わせを行い、処方薬は保健師さんがはまゆう薬局へ受け取りに行っていただけるようになったので、薬剤師チームは保健師さんから薬剤を受け取り、服薬指導を兼ねて、ご本人へお渡しする形でした。感冒症状や倦怠感を訴える方もご相談に来られ、相談ブースに設置していた体温計で体温を測定していただいたところ、発熱していた避難者多く、この場合も保健師チームへ報告し、近くの佐賀関病院へ受診をしていただきました。そのうち数人がインフルエンザ陽性と診断され、そのまま入院となる方や、隔離部屋で過ごしていただくこととなる方もいらっしゃり、薬剤師チームのフィジカルアセスメントが、インフルエンザ感染者の

早期発見の一翼を担う形になりました。また、活動の合間に、各避難所ルームとなっている場所の二酸化炭素測定も行い、必要に応じて換気も促しました。残念ながら、結果的にはインフルエンザが流行してしまいましたが、それでも今回の活動を通して、可能な限り感染拡大を防ぐことができたのではないかと考えます。

今回の支援活動では、最終的に117件のお薬相談をいただきました。後半はお薬相談というよりは、ご自身の現状について、その心情を吐露される方も散見されましたが、一通りお話をされた後は、心が少し楽になったという方もいらっしゃり、薬剤師としてではなくても、人として、心に寄り添う支援も行えたのではないかと思います。

最後に、日常業務でお忙しい中、業務の調整を行い、支援活動にご参加していただきました先生方、支援に向かった方の業務を肩代わりし、縁の下の力持ちとなってくれた先生方、本当にありがとうございました。12月5日をもって、現地での支援活動は一旦終了となりましたが、今も電話対応という形で、支援活動は続いております。1月には災害時の感染症対策に対する研修会が行われます。災害時には各地域薬剤師会の皆様一人ひとりの手の届く範囲で、それぞれが支援活動を行っていただくことが何よりの力となります。日常から使える知識を身につけ、有事の際はお力添えいただきますよう、よろしくお願ひいたします。



ランドリーカー



## 公益財団法人 永富薬学奨学財団

理事長 永富 茂

(大分市薬剤師会)

平素は公益財団法人永富薬学奨学財団に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2006年に薬学教育は6年制に変更され、新設の薬学部、薬科大が急増しました。厚労省の薬剤師不足に対する施策によりその人数は増加傾向にあるものの、都市部の一部では充足傾向にあるといわれている反面、地方では人材不足が今なお続いている。なかでも、薬学部の無い大分県では薬剤師の確保が難しい現状は変わってはいません。

今回のテーマにあります「薬剤師確保事業」において、僭越ではございますが当財団の趣旨及び取り組みをご紹介させていただき、薬剤師確保のための一助となればと願っております。

当財団は、2019年12月に一般財団法人として産声を上げ、翌年2020年4月に公益財団法人としてのスタートを切りました。大分県内で働く薬局薬剤師を一人でも多く増やすために、薬学生5年生・6年生にフォーカスし、奨学金給付にて支援する財団です。給付型奨学金制度ですので、基本的には返還の義務は発生しません。薬剤師国家試験に合格し、大分県内のどの保険薬局でも良いので最低3年間勤務をすれば奨学金の返還は必要ありません。

奨学金は5年生には月額5万円で年額60万円、6年生には月額10万円で年額120万円が給付されます。5年生6年生と継続した場合、合計で180万円となります。お陰様で2025年3月を持ちまして丸5年が経過しましたが、これまでに15名の方々が大分県内の保険薬局(8社)にて活躍されています(但し、内1名は3年経たずして県外に転出されましたので、実質は14名です)。

財団の奨学金制度を利用されたOB/OGの方々にお聞きすると、「県内に薬学部がないので、県外の大学に行くことになるが、どうしても生活費が嵩む様になる。その分をカバーして

くれる様な形になりとても助かった」や「5年生・6年生の国家試験に向けての一番大事な時期に、アルバイト等をすることなく、国家試験対策に集中することが出来、心理的にもとても安定した時間を確保できた」などの大変ありがたい感想を頂いています。

さて、私は1982年に永富調剤薬局1号店を開設して以来、店舗数を25店舗まで増やしてきましたが、開設以来ずっと「薬剤師不足問題」が常に脳裏から離れることはませんでした。2019年に事業成長と経営基盤の強化を目的に(株)メディカルシステムネットワークへグループ入りしました。これを契機に今までお世話になった大分県の為に、何か見える形で恩返しをしたいと言う強い信念のもと、財団の設立に踏み切りました。しかしながら、なかなか薬剤師不足問題は解決することはありません。

当財団は、毎年5年生10名程度、6年生5名程度(若干の変更あり)を募集していますが、募集人員に達することはなく数名程度の利用でしかありません。

本年度4月から、大分県も病院薬剤師を増やすための支援策として、奨学金返還支援補助制度や修学資金貸与制度がスタートしました。これにより当財団の薬局薬剤師への支援に加え、病院薬剤師を増やすための支援策が整ってきました。将来的には、薬局や病院というカテゴリーにこだわることなく、「薬剤師全体」を増やすために、薬学生の選択肢が今よりももっと増えることは喜ばしいことだと思います。加えて、若い人が住みたくなる魅力ある街づくり、働きたくなる環境の整備などを行政や薬剤師会と共に、「金銭面での支援」だけではない包括的な薬剤師確保事業にも微力ながら注力してまいりたいと思います。

個人事業では出来ることに限界がありますが、ただ、今は永富薬学奨学財団として、ひた

すら奨学生制度の周知徹底を心掛け実践し、一人でも多くの薬学生に制度を利用して帰郷して頂き、大分県の地域医療の継続的な発展に尽力して頂けるようにこれからも支援を惜しまない覚悟であります。

皆様におかれましては、機会がありましたら、

是非とも当財団のご紹介も併せて宜しくお願ひ致します。

最後になりましたが、大分県薬剤師会の今後ますますのご発展と、会員皆様方のご健勝、そして2026年が皆様お一人お一人にとって、輝かしき一年になりますことをご祈念申し上げます。

# 奨学生募集

2026年度  
募集

## 大分の地から 薬剤師を目指す あなたに。

### 給付型奨学生による支援

 給付型奨学生 返済不要	 給付対象 薬学部5・6年生	 5年生給付金額 月額5万円 (年額60万円)	 6年生給付金額 月額10万円 (年額120万円)
--------------------	----------------------	----------------------------------	------------------------------------

公益財団法人 永富薬学奨学財団  
Nagatomi Pharmacy Scholarship Foundation

## 「薬剤師が薬局をさがす」ニックネームで登録OK! 「薬局が薬剤師をさがす」

### 薬剤師会の運営する薬剤師求人サイト ファーマファインドJOB

薬剤師会の運営する薬剤師求人サイトです。登録費用・成功報酬も一切かかりません。

WEBアドレス

<https://www.pharmafind.jp/job>

ファーマファインドJOB

検索

The screenshot shows the homepage of the PharmaFind JOB website. It features a large image of two pharmacists in a pharmacy setting. A pink circle contains the text '求人/求職者のベストマッチングを実現!' (Achieve the best matching between job seekers and employers). To the right, there's a diagram illustrating the matching process: a pharmacist (薬剤師) and a pharmacy (薬局) both search (探す) for each other through a matching process (マッチング). Below this, a large red '0' indicates '登録費用' (Registration fee) and '成功報酬' (Success fee) are both free (無料).



そんな心配を  
**解消**  
しかも簡単 3ステップ

STEP1

ご登録／承認

PC、タブレット、スマートフォンに対応!

必要事項の入力後、承認メールが届いたらすぐにご利用可能です。

STEP2

マッチング

希望条件にマッチした求人・求職情報が一覧形式で確認できるだけでなく、定期的にお知らせメールを受け取ることも出来ます。

STEP3

応募／スカウト

メッセージ機能で求人者・求職者の応募、スカウトなど、やりとりがスムーズに行えます。



面接



就職成功



## 「ファーマファインドJOB」とは

平成15年（2003年）に、九州ブロックの薬剤師会において構築された無料の求人Webサイトです。簡易情報は求職登録せずに閲覧できますが、詳細情報は、求職情報フォームにて登録を行い、登録先紹介所（大分県薬剤師会 薬剤師無料職業紹介所：大分県薬内設置）にて承認されたのち、閲覧用のログイン名・パスワードがメールにて配信されます。

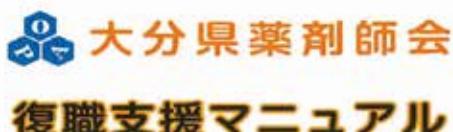
- ・求職登録期間は最長6か月
- ・登録更新（継続）は再度Webにて登録する

### よくある質問（ファーマファインドJOB Webサイトより）

- Q. 求人検索をするのに登録は必要ですか？  
A. 登録がなくても、簡単な検索サービスをご利用いただけます。  
ただし、求人に「応募」する際には、登録が必要となります。
- Q. 求人／求職登録はどのように行えばよいのでしょうか？  
A. 求人／求職登録につきましては以下の手順で行えます。  
1) TOP画面にて「求人申し込み」または「求職申し込み」をクリック  
2) 「業務の運営と個人情報に関する規程」にて申込み県薬を選択後、同意するボタンをクリック  
3) 「求人／求職登録」にて必要事項を入力後、登録ボタンをクリック  
4) 登録内容が承認されましたら、ご登録EメールアドレスにログインIDとパスワードが記載された承認メールが届きます
- Q. 登録をすると何ができるようになるのですか？  
A. 次の各サービスを無料でご利用いただけます。  
1) プロフィールの登録で自動マッチング ⇒ プロフィールを登録しておくことで、希望にマッチしたスカウト情報が届くかも。  
2) メッセージ機能 ⇒ メッセージ機能を利用すると、求人薬局と直接やり取りが可能です。  
3) ニックネームでの問い合わせ ⇒ 意中の薬局に対して、匿名（ニックネーム）での問い合わせが可能です。

### 大分県薬剤師会女性部会からのお知らせ

女性部会は、復職希望の薬剤師向けに「復職支援マニュアル」を作成しました。薬剤師として、復職や就職を希望される方がいましたら、大分県薬剤師会へご連絡お願いします。実習等のご相談に応じ、復職への支援を行います。



2021年7月作成 女性薬剤師部会

薬剤師で  
再就職  
してみませんか？

未経験者の方  
歓迎します！



次のような方の薬剤師としての就業を支援します

- 調剤経験はあるものの、何年間かブランクがある方
- 会社や行政関係に勤務し、調剤経験が無いか乏しい方

### 支 援 内 容

- ・面談して、希望をお聞きします。
- ・個人ごとのプログラムを作成します。
- ・実際の調剤実習は会営薬局のO・P・A(オーピーエー)薬局を中心  
にし、必要に応じて他の調剤薬局や病院でも実施します。

薬剤師として就業を希望する方、将来的に考えている方はまず、大分県薬剤師会の事務局までお電話ください。折り返し、申込書を送付あるいは送信します。

公益社団法人 まずはご相談ください

**大分県薬剤師会 事務局**



TEL(097)544-4405 FAX(097)544-1051

## 薬と健康の週間 報告

10/17-23  
金曜日 木曜日

# 薬と健康の週間

大分県  
薬と健康の週間  
ホームページは  
こちらから ➡



<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/r7kusuritokennkounosyuukann.html>



薬に対する疑問・質問を受け付けています。下記番号へお気軽にどうぞ。

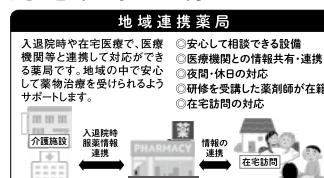
**おくすり110番** 受付時間 午前10時～午後3時

10月17・18・20・21・22・23

大分県薬剤師会薬事情報センター TEL.097-544-9512

《なお、薬と健康の週間以外の平日も受け付けております》

### 認定薬局をご存じですか？



【大分県内の認定薬局】※令和7年10月現在のものです。

●持続化薬局(市原や村山・ムラカミ)、伊都薬局、ふくと薬局、布袋会社キムラ薬局、えまはら薬剤薬局、大隈調剤、詳しく述べ調剤、太陽調剤(鶴見店、佐世保店、中津田店)、たけだ調剤薬局、東中の島調剤薬局、永吉調剤薬局(黒崎町店)、はしまイオン前店、有段会社みどり調剤薬局(くつりのキャットラングックス鹿府店)、ゆう調剤薬局(ななせ店)、白井店、まつむち店)、そつこう薬局(津久見店)、津久見港町店、中津店、臼杵コスモス店)、かもめ薬局、佐伯調剤薬局、ヤマニ薬局中佐店、大分市薬剤師会会館/パロア薬局、アイン薬局(大分羽生店、国富店)、●専門医療機関連携薬局/有限会社キムラ薬局、佐伯調剤薬局

### 県民公開講座 お薬セミナー

日時 令和7年10月19日(日)  
10:00~12:30

場所 J:COMホールトホール大分3階  
302・303会議室 大分市金池南1-5-1 TEL.097-576-7555

入場  
無料

事前登録不要(定員100名)

どなたでも事前申し込み不要で会場にご参加いただけます！

- 主催者挨拶 (10:00~10:05) 公益社団法人大分県薬剤師会 会長 中芝 高彦
- 一般講演 「薬草を探して～薬剤師が語る、漢方のはなし～」 (10:05~10:30) 大分県薬剤師会 情報委員会 深野 貴広
- 大分県薬剤師会からのお知らせ (10:30~10:40) 「簡易心電図測定で早期発見、早期受診」
- 特別講演 「笑わないと笑えなくなる」 (10:40~12:10) おおいた観光大使 佐伯市宇目町鷹島屋神社 宮司 矢野 大和先生
- 簡易心電図測定体験コーナー (12:10~) ※希望者多数の場合、当日開催できないことがあります。

主催/公益社団法人大分県薬剤師会 連絡先/大分県薬剤師会 薬事情報室 TEL.097-544-9512 FAX.097-544-8060 mail:jyouho@oitakenyaku.or.jp

《介護・保険・医療・福祉や環境衛生に関する検査なども、かかりつけ薬剤師・薬局にご相談ください》

主催/大分県薬剤師会・大分県医薬品登録販売者協会・大分県医薬品卸業協会・大分県製薬協会  
大分県医薬品配置協議会・大分県医療機器協会・大分県・大分市

めざせ! 健康寿命日本一!



公益社団法人 大分県薬剤師会



〒870-0855 大分市豊鏡二丁目11番3号 TEL.097-544-4405㈹ FAX.097-544-1051

<http://oitakenyaku.or.jp>

大分合同新聞（2025年10月17日）掲載

## 大分県薬剤師会

日 時：令和7年10月17日（金） 7:30～8:30

場 所：大分駅前（北口広場、南口広場）周辺

参加者：大分県薬剤師会、大分県医薬品登録販売者協会、

大分県医薬品卸業協会、大分県製薬協会、

大分県医薬品配置協議会、大分県医療機器協会、

大分県、大分市

概 要：当会から中芝高彦会長をはじめ5名、事務局2名が参加し、

大分駅前周辺で「薬と健康の週間」啓発リーフレット、カッ

トパン等を配布し、街頭広報を実施した。



## 中津薬剤師会

会長 川口 純市  
(大貞薬局)

日 時：令和7年10月18日（土） 15:00～

場 所：ゆめタウン中津

啓発資材：リーフレット、絆創膏

参加者：大分県北部保健所 3名

中津薬剤師会 5名

薬と健康の週間の行事の一環で、北部保健所と合同で、薬に関する啓発活動を行いました。来店された地域の皆様に、絆創膏や健康啓発リーフレットを配布し、「正しい薬の使い方」や「セルフメディケーションの推進」などについて周知を図りました。

今回は説明や相談対応は行わず、買い物に訪れた多くの方に啓発物をお渡しする形で実施しました。

小さなお子さん連れの家族や高齢の方々など、幅広い年代の方々に受け取って頂き、関心を持ってリーフレットを手に取る姿も見られました。

短い時間ではありましたが、多くの住民の方々に薬と健康について考えるきっかけを提供できたと思います。

今後も北部保健所・薬剤師会が協力し、地域に根ざした健康づくりの推進に取り組んでまいります。



## 豊後高田市薬剤師会

### 豊後高田市「昭和の町音楽祭」での啓発活動

会長 酒井 浩一  
(たかだ調剤薬局)

日 時：令和7年10月19日（日）

共同実施：豊後高田市薬剤師会／豊後高田市保健部

#### 1. 実施概要

「薬と健康の週間」（10月17日～23日）の取組の一環として、令和7年10月19日（日）、豊後高田市で開催された「昭和の町音楽祭」において、豊後高田市薬剤師会と豊後高田市保健部が合同で啓発ブースを出展した。当日は市民の健康意識向上を目的に、薬剤師によるお薬相談のほか、家庭用心電計付血圧計や骨健康度測定器を用いた体験型の健康チェックを実施した。

また、来場者の多くに子ども連れの家族が含まれていたことから、薬剤師会会員によるバルーンアート（いぬ・剣・花など）のプレゼントも行った。「バルーンください！」と駆け寄る子どもたちの姿も見られ、ブース周辺はにぎやかな雰囲気に包まれた。

#### 2. 実施内容

ブースでは次の内容を実施した。

- ・家庭用心電計付血圧計による測定  
(データ取得)
- ・骨健康度測定
- ・お薬相談（薬剤師による個別対応）
- ・バルーンアート配布（子ども向け）

今回は、家庭用心電計付血圧計と骨健康度測定器を使用したため、これらに関連する相談が多く寄せられた。血圧管理や不整脈の予防、骨粗しょう症対策、サプリメントの活用方法など、日常生活に密着した質問が多く、市民の健康意識の高さがうかがえた。

### 3. 心電図測定結果

測定対象者数：60名

(20代：1名、30代：6名、40代：14名、50代：11名、60代：11名、70代：14名、80代：3名)

判定区分	人数	備考
正常な洞調律	55名	特に異常所見なし
頻脈	1名	医療機関での確認を推奨
心房細動の疑い	1名	医療機関受診を勧奨
分類不能	1名	計測条件不良等
解析不能	2名	測定ノイズ等の影響

### 4. 考察・まとめ

参加者の大多数は中高年層であり、心電図測定や骨健康度に対する関心が高く、「自分の体の状態を知る良い機会になった」との感想が多く寄せられた。また、家族連れの来場も多く、バルーンアートを通じて子どもたちとのふれあ

いが生まれ、薬剤師や薬局が地域にとって身近な存在であることを自然に伝える機会にもなった。お薬相談では、血圧・骨粗しょう症治療薬、サプリメント併用、日常生活での注意点など、測定結果に関連した実践的な質問が中心で、薬剤師の専門的助言が住民の安心につながった。

### 5. 今後の展望

今後も地域行事と連携し、薬剤師が住民の健康維持・増進に直接貢献できる啓発活動を継続していく。特に、測定データの分析や相談内容の傾向を活かし、生活習慣病予防や健康寿命延伸に資する取組をさらに広げていきたい。加えて、親子で楽しめる体験型の健康イベントを工夫し、より幅広い世代に薬剤師の活動を知ってもらえるよう努めていく。



# 令和7年度 お薬相談会報告書

日 時：令和7年10月21日（火）

場 所：草地芝場サロン

主 催：豊後高田市薬剤師会

講 師：酒井浩一

参加者：11名

## 1. 開催の概要

本年度の「薬と健康の週間」に合わせて、「感染症と健康管理」をテーマとしたお薬相談会を開催した。本事業は同地区で行うのは今回で2回目の開催となり、昨年度は「お薬を正しく使うための基礎知識」や「健康食品・サプリメント」「ジェネリック医薬品」など、薬の正しい活用を中心に講話をを行い、**家庭用心電計付血圧計**については説明を行うにとどまっていた。今年度はそれを踏まえ、より実践的な内容として感染症対策と健康管理をテーマに講話をを行い、**家庭用心電計付血圧計**と骨健康度測定器を用い、実際の測定体験を取り入れて実施した。

## 2. 講演および実施内容

講演では、「感染症と上手につきあう日常の工夫～薬剤師が伝えたい冬の健康管理～」と題し、季節性インフルエンザや新型コロナウィルスの動向、感染経路の違い、ワクチン接種の基本、発熱時の対応や家庭内感染防止の工夫などについて解説した。さらに、フレイル（虚弱）や免疫力低下との関連にも触れ、食事・運動・水分補給・会話・笑いなど、生活習慣の中で免疫を高める工夫を紹介し、冬場の体調管理の重要性を伝えた。

## 3. 測定体験・健康チェック

今回は、**家庭用心電計付血圧計**および骨健康度測定器を使用して、希望者に実際の測定体験を行った。心電図付き血圧計による測定は11名中7名が参加し、正常な洞調律が6名、心房細動の疑いが1名という結果であった。結果はその場でフィードバックし、必要に応じて医療機関への受診を勧めるなど、薬剤師として地域住民の健康支援を行った。

## 4. 相談内容と参加者の反応

お薬相談では、感染症予防のための手洗いやうがいのタイミング、ワクチン接種の目安、発熱時に服用してよい薬の選び方、市販薬との併用の注意点などが多く質問された。また、測定体験を通して「家庭でも健康チェックができる」とことへの関心が高まり、心房細動や高血圧への理解促進にもつながった。

## 5. 総括

本事業は、薬剤師が地域の健康維持に果たす役割を改めて住民に実感してもらう良い機会となった。昨年度の基礎的な薬の知識講座から一步進め、今年度は感染症と慢性疾患の両面から健康づくりを支援できた点が大きな成果である。今後も、豊後高田市薬剤師会として、地域に密着した健康支援活動を継続的に展開していく。

## 佐伯市薬剤師会

### 健康フェア活動報告

佐伯調剤薬局 仲矢 侑希子



日 時：令和7年10月26日（日）  
場 所：佐伯地区公民館  
主 催：佐伯市薬剤師会

令和7年10月26日（日）、佐伯市薬剤師会主催による「健康フェア」を佐伯地区公民館にて開催しました。本事業は、地域住民に対し薬に関する正しい知識の普及と健康意識の向上を目的として毎年実施しているものであり、本年度も多く関係機関のご協力のもと、無事に開催することができました。

当日は、佐伯市、南部保健所、株式会社アステム、そして九州医療科学大学の学生の皆さんに加え、多数の会員薬剤師の参加を得て、骨密度測定、心電図測定、お薬相談、薬剤師体験、健康・栄養相談、講演会など多彩なブースを開設しました。来場者からは「相談しやすい」「身近な内容で分かりやすい」といった声が多く寄せられ、地域における薬剤師の役割を改めて実感する機会となりました。

特筆すべき点として、今年度は九州医療科学大学薬学部の学生12名が参加し、そのうち2年生6名が2グループに分かれて、佐伯市民を対象とした「お薬に関するポスター発表」を行いました。学生自身がテーマ設定から資料作成、説明までを担い、来場者と直接対話する形式で実施した結果、どちらの発表も多くの市民が足を止め、熱心に耳を傾ける盛況なものとなりました。

学生アンケート（回答率83%）では、「学生の立場で学んだ知識を地域の方に伝える貴重な経験だった」「分かりやすく説明するために調べ直すことで理解が深まった」「地域の方が真剣に聞いてくれ、発表のやりがいを感じた」といった声が多数寄せられました。また、「病院に行くほどではないが不安を抱える方が多いこ



とを実感した」「地域の方に頼られる薬剤師になりたいと強く思った」など、地域医療への关心や職業意識の醸成につながる意見も多く見られました。改善点については「特ない」との回答が大半を占め、全体として高い満足度が示されました。

一方、参加薬剤師を対象としたアンケート（回収率67.7%）では、「学生との連携が非常に良かった」「会場の雰囲気が明るく、来場者対応が円滑だった」など、運営面や学生参加に対する高い評価が得られました。特に、学生の積極的な声かけや作業補助が来場者との距離を縮め、フェア全体の活気につながったとの意見が多く見受けられました。また、次年度の継続実施については回答者全員が「継続を希望する」と回答しており、本事業への期待の高さが明確に示されました。一方で、骨密度測定やお薬相談における人員配置、動線の分かりやすさなど、今後の改善点も具体的に挙げられており、次年度に向けた貴重な示唆を得ることができました。

本健康フェアは、地域住民にとって身近な健康相談の場であると同時に、学生にとっては実践的な学びの場、薬剤師にとっては職能を再確認する機会となっています。今後も関係機関との連携をさらに深め、地域に根ざした健康支援活動として継続・発展させていきたいと考えています。ご協力いただいたすべての皆さんに、この場を借りて心より御礼申し上げます。

※タペストリーをご快諾の上、お貸し出しいただきました大分市薬剤師会様に、心より感謝申し上げます。





## 大分県薬剤師会薬事情報センター

### 令和7年度 おくすり110番報告

本年度も「薬と健康の週間」において、大分県薬剤師会薬事情報センターに「おくすり110番」を設置し対応しましたので結果を報告致します。

今年も昨年同様、午前、午後各1名の薬剤師が日曜日を除く6日間、相談に対応しました。

合計10件の相談があり、男性1件、女性9件、相談者の年齢は不明を除くと全員が50代以上でした。

17日の新聞掲載や、大分駅周辺で実施した啓発活動がお昼にニュースで放映された影響が大きかったせいか、17日午後の相談件数が最

も多く4件となりました。

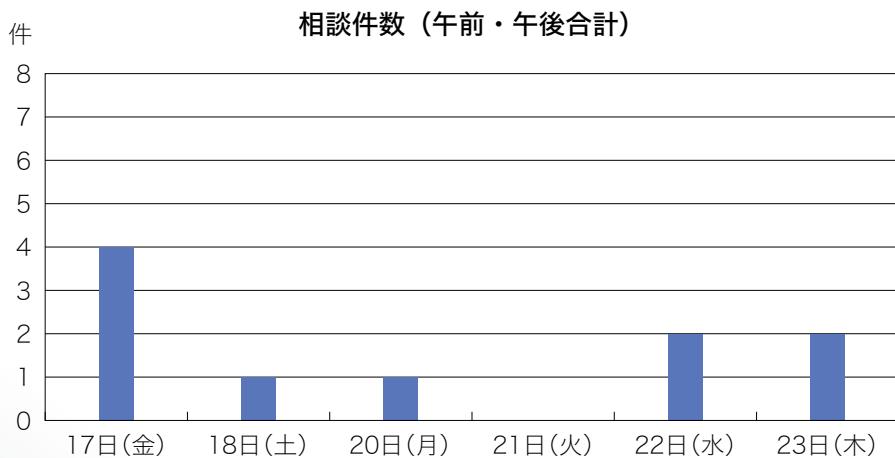
相談内容では、薬を継続する必要性の有無や薬の副作用、治療法への不安などに関する質問が多く、情報が氾濫する時代の中で患者がより正しい情報を知りたいと思う気持ちの表れを感じました。

以前と比べ、相談件数は減少しています。誰もが手軽に情報を入手できるようになったこともあります、かかりつけ薬剤師・薬局が浸透し、日頃から薬局で薬剤師に相談できる雰囲気や環境が整ってきたことも相談件数減少の一因となっているのではと感じました。

#### 統計データ

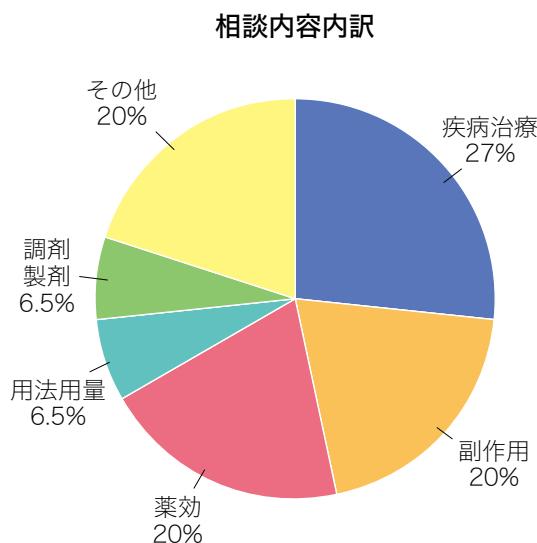
##### 1. 相談件数

	17日（金）	18日（土）	20日（月）	21日（火）	22日（水）	23日（木）	合計
午前件数	0	1	1	0	0	1	3
午後件数	4	0	0	0	2	1	7
合計件数	4	1	1	0	2	2	10



## 2. 相談内容内訳

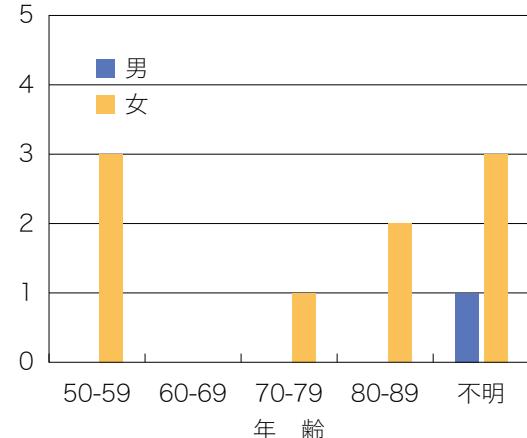
相談内容	件数(延べ)
疾病治療	4
副作用	3
薬効	3
用法用量	1
調剤製剤	1
その他	3
計	15



## 3. 相談者の内訳

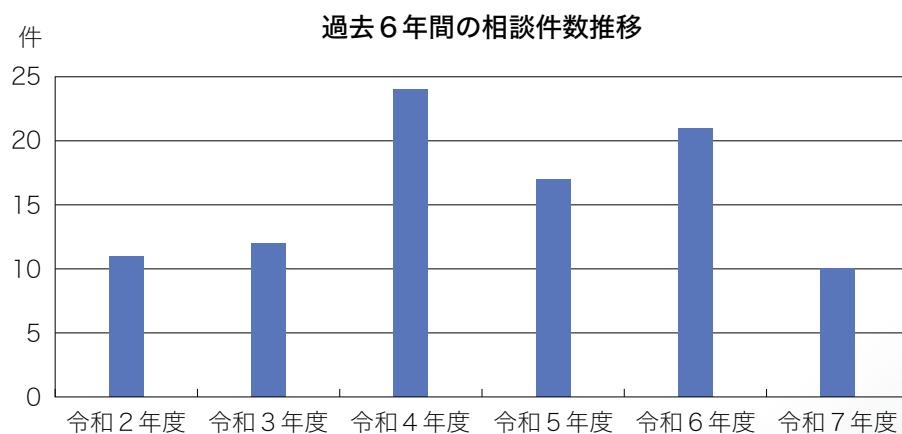
年齢	男	女
50-59	0	3
60-69	0	0
70-79	0	1
80-89	0	2
不明	1	3
計	1	9

## 相談者の内訳



## 4. 過去6年間の相談件数推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
件数	11	12	24	17	21	10



## 令和7年度 県民公開講座 お薬セミナー

情報委員会 委員長 安部 憲廣

(東中の島調剤薬局)

日 時：令和7年10月19日（日） 10:00～12:30  
場 所：J:COMホルトホール大分 3階 302・303会議室  
一般講演：「薬草を探して～薬剤師が語る、漢方のはなし～」  
講 師：大分県薬剤師会 情報委員会 淵野 貴広 先生  
特別講演：「笑わないと笑えなくなる」  
講 師：おおいた観光特使 佐伯市宇目町鷹鳥屋神社宮司 矢野 大和 先生

大分県薬剤師会からのお知らせ：簡易心電図測定で早期発見、早期受診  
簡易心電図測定体験（体験者：19名）

参加人数：74名（情報委員会薬剤師：13名含む）

大分県薬剤師会情報委員会 淵野貴広先生の一般講演「薬草を探して～薬剤師が語る、漢方のはなし～」は、薬草や漢方を病気の症状に関連付けたとてもわかりやすい内容で、参加者も頷きながら熱心に聞き入っていました。

おおいた観光特使 佐伯市宇目町鷹鳥屋神社宮司 矢野大和先生の特別講演「笑わないと笑えなくなる」では、健康維持のために笑いや会

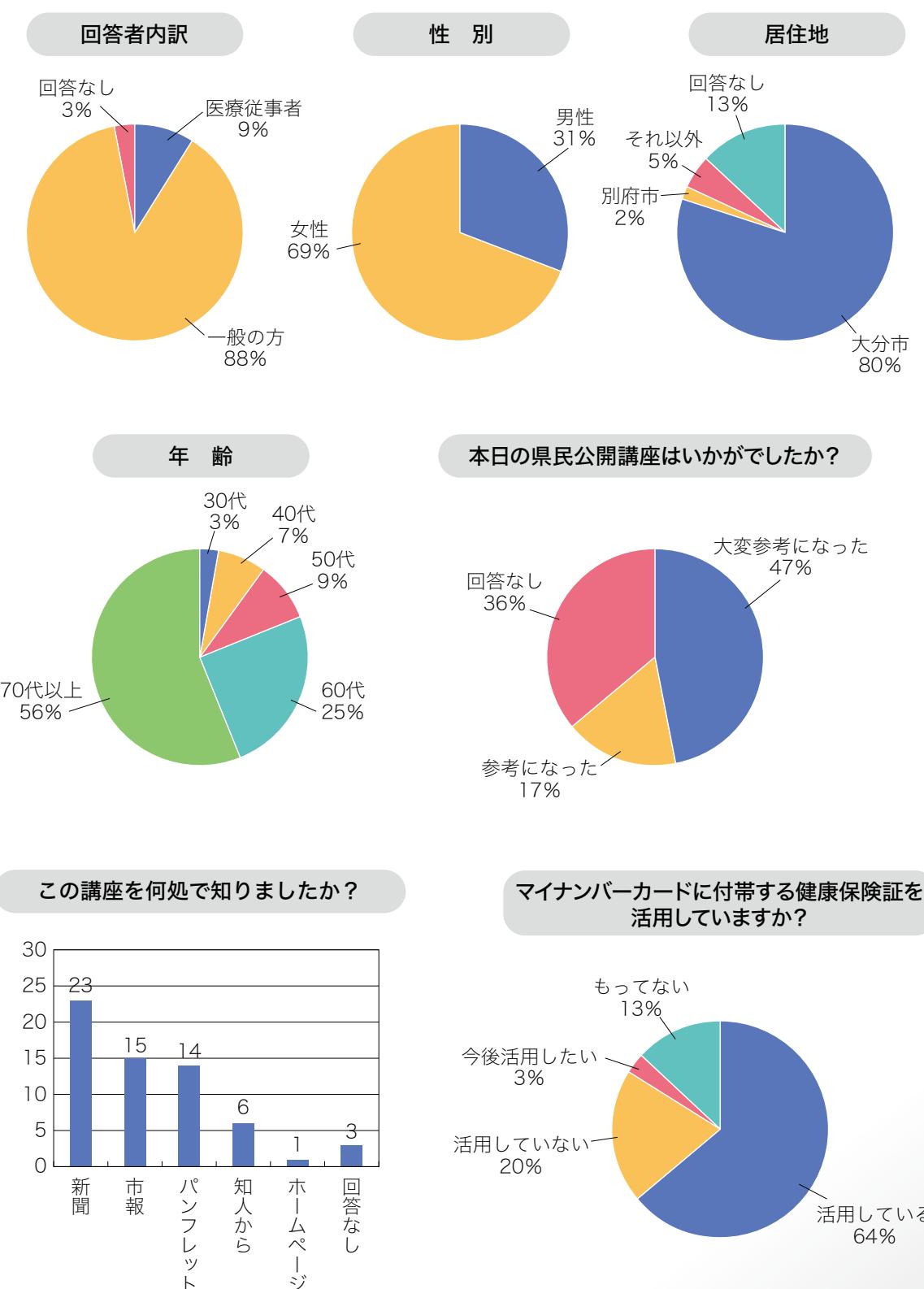
話が大切であることを話され、その軽快なトークに会場は終始大きな笑いに包まれました。

簡易心電図測定体験では情報委員会の山田真義先生による「簡易心電図測定で早期発見、早期受診」のお知らせの後、矢野大和先生も来場者と一緒に簡易心電図測定器で実際に計測を体験されました。



## 令和7年度 研修会 アンケート結果

会場アンケート回収率（情報委員除く）：59名／61名（96.7%）



# 検査センター だより

## Contents

2026年1月

豊後高田市生活用水マップを作成しました  
2025年度 連絡調整会議の開催について  
大分県計量協会長表彰

TEL 097-544-4400 FAX 097-546-8190  
URL <https://www.oitakensa.jp/>  
E-mail soumu@oitakensa.jp

## 豊後高田市生活用水マップを作成しました

当検査センターでは、公益法人として災害や事故の際に緊急の水質検査や給水車による飲料水の供給活動等、多くの自治体へ協力体制を取ってまいりました。

近年では、平成23年3月の東日本大震災、平成28年4月の熊本・大分地震、令和6年1月の能登半島地震など大規模な地震の発生や豪雨災害が多く発生しており、大分県においては南海トラフ巨大地震が発生した際に大きな被害を受けることが想定されています。津波や豪雨による浸水や落盤等の被害においては水道や地下水の供給が途絶える可能性があります。東日本大震災で被災された方々より、生活用水の確保が困難であったとの意見が多くありました。

これに伴い、「緊急時の生活用水MAP」を平成28年4月に佐伯市をモデル地域として作成しました。佐伯市で作成した「緊急時の生活用水MAP」は、南海トラフ巨大地震が発生した際の津波を想定し、沿岸地域において生活用水（飲料用ではないトイレや洗濯等）として利用するための井戸水や飲料水を確保するための貯水槽水道を各設置者のご協力を得て、災害時に利用させていただく施設として登録いたしました。

次いで、平成29年3月に津久見市、令和3年3月に臼杵市においても作成しました。この両市の「災害等緊急時生活用水マップ」は、津波以外の災害時も想定し、沿岸地域以外でも井戸及び貯水槽水道の施設登録をいたしました。

そして今回、豊後高田市においても市内27ヶ所の井戸を対象に、同様の「災害等緊急時生活用水マップ」を作成しました。

贈呈式は、9月2日（火）に豊後高田市役所において、豊後高田市より佐々木敏夫市長他市役所職員の方々、当会から中芝高彦会長、酒井浩一専務理事、嶋崎晃検査センター所長他職員、また、監修をお願いした大分県より安東大悟環境保全課主幹総括の臨席を得て、多くのテレビ局等取材もあり、盛大な式となりました。

式では、中芝会長から「本マップが豊後高田市の皆様の防災意識の向上に繋がり、万が一の際には命を守るための大切な情報源となることを祈っております」と挨拶の後、「豊後高田市災害等緊急時生活用水マップ」の概要説明が行われ、マップ1,000部と該当井戸がある施設用のステッカーが佐々木市長へ贈呈されました。



マップと目録を披露する中芝会長と佐々木市長



贈呈式に参列された方々の集合写真



贈呈品一式

\* 「豊後高田市災害等緊急時生活用水マップ」は、豊後高田市HPで閲覧可能です。

## 2025年度 連絡調整会議の開催について

当検査センターでは、市町村の水道及び飲用井戸担当課、組合営簡易水道及び専用水道、市町村教育委員会の各担当者を対象にそれぞれ毎年、連絡調整会議を開催しています。

まず、9月12日（金）に市町村の水道及び飲用井戸担当課関係者、組合営簡易水道及び専用水道関係者を対象に水道水質検査等に係る会議を開催しました。当会の中芝高彦会長による開会挨拶の後、環境省 水・大気環境局 環境管理課水道水質・衛生管理室の宇津木紀昭基準係長から「水道水質管理について」ご講演いただきました。令和8年4月から水道水の水質基準として新たに水質検査の実施及び基準を順守する義務が課されるPFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）及びPFOA（ペルフルオロオクタン酸）について検査頻度の考え方の説明などについての講演をいただきました。当検査センターも、水道水質検査の登録検査機関として県内の水道事業を支えています。登録検査機関で実施する水質検査は、水道の安全を確認する重要なものであることから、信頼性の高い検査の実施が確保できるよう、適切な水質検査の徹底が求められています。改めて、安全安心な水道を提供する水道法を学ぶ良い機会となりました。

当検査センターからの議事として、「2024年（令和6年）度外部精度管理結果と水質検査試料採取及び運搬手順について」「水質基準に関する省令の改正と2026年度水質検査計画策定について」ご説明させていただきました。



中芝県薬会長による挨拶



環境省 水・大気環境局  
環境管理課水道水質・衛生管理室  
宇津木基準係長の講演



大分県薬剤師会検査センター  
水質検査課 甲斐課長の議事

次に、10月3日（金）は、市町村教育委員会の担当者を対象に学校環境衛生検査に係る会議を開催しました。当会の中芝高彦会長による開会挨拶の後、大分県教育庁体育保健課 学校保健・食育班の宮崎裕紀主査から「学校環境衛生について」ご講演いただきました。学校環境衛生基準の法的根拠や目的、学校環境衛生活動における学校関係者の役割、学校環境衛生活動の進め方など様々な視点からの講演をいただきました。

また今年度は議事として当検査センターから「学校給食調理施設の衛生管理支援への取組みについて」「空気環境測定の結果について」「2026年度「学校環境衛生基準」検査項目及び手数料について」の3題についてご説明させていただきました。



大分県教育庁体育保健課 学校保健・食育班  
宮崎主査の講演



大分県薬剤師会検査センター  
施設環境課 炭本課長の議事



大分県薬剤師会検査センター  
食品環境課 小柳課長の議事

当センターでは、このような機会を通して最新の関係情報をお届けするとともに、水道法の登録検査機関として、今後も皆様から安心して水質検査をご依頼いただけるよう質の高いサービスの提供に努めてまいります。

## 大分県計量協会長表彰

大分県計量協会では、協会の発展に貢献し、協会の振興に著しい功績のあった個人、団体、役員を対象として毎年、会長表彰を行っています。

このたび、当検査センター水質検査課の中西課長補佐、食品環境課三股係長が、環境計量業務に長年従事し、技量が卓越している者として、今年度の大分県計量協会長表彰を授与されました。

表彰式は、令和7年12月4日（木）にアートホテル大分で行われました。

私たち職員一同、彼らの業務に取り組む姿勢を見習い、一層業務に精励していきたいと思います。



表彰の様子 中西課長補佐



表彰の様子 三股係長



挨拶の様子 中西課長補佐



挨拶の様子 三股係長

# O·P·A 薬局 だより

## Contents

2026年1月

がん連携について

〒870-0855 大分県大分市豊饒二丁目10番9号  
TEL 097-544-0234 FAX 097-544-0245  
URL <https://www.oitakenyaku.or.jp/opa/>  
E-mail [opa@oitakenyaku.or.jp](mailto:opa@oitakenyaku.or.jp)

## がん連携について

須藤 エミ

大分県薬剤師会の会員の皆様には平素より大変お世話になっております。

今回のO・P・A薬局だよりはがん連携について紹介させていただきます。

2020年の診療報酬改定で外来がん化学療法の質向上のための総合的な取り組みとして病院では連携充実加算が、薬局では特定薬剤管理指導加算2が算定できるようになっています。

大分県立病院は地域がん診療連携拠点病院のため、当薬局には多くのがん患者さんが来局されています。その患者さんの中に化学療法情報提供書（写真）を持参される方がいらっしゃいます。そこには患者さんのがん種、レジメン名、コース数、副作用発現状況が記載されています。その記載された情報をもとに来局から約1週間後を目安に患者さんに電話にてフォローアップをしています。がん化学療法は入院中であれば副作用が出てもすぐに院内にて対応が可能ですが、外来の化学療法の場合は自宅に帰ってから

副作用が出ることがあるため、不安を感じられる患者さんがいらっしゃいます。そのため電話での体調変化の聞き取りは調剤薬局の大切な役割となっています。聞き取った副作用はCTCAEに基づきグレード評価をしていきます。その評価を元にトレーシングレポートを作成し、情報を病院の医師・薬剤師にフィードバックしています。もちろん急を要するような副作用の時は電話で対応するようにしています。

病院には連絡するほどではない軽微な体調変化でも調剤薬局の薬剤師になら話せるということもありますし、身近な医療従事者として地域の患者さんに貢献できるように日々精進していきたいと思います。

またこの化学療法情報提供書を持参される患者さんが会員薬局様に来局されるケースもあるかと思いますのでご不明点があれば当薬局にお気軽にお問い合わせください。

